



慶應義塾大学・論理と感性のグローバル研究センター
文化人類学研究セミナー

2019年3月6日 14時

Cultural Anthropology Seminar, March 6, 2pm, 2019

Global Research Center for Logic and Sensibilities, Keio University

**Air Love and Make-Believe Rituals:
The Digital Boyfriends in Japan**

Speaker: Dr Agnès Giard associate researcher at Paris

Nanterre University at Sophiapol

日時：2019年3月6日(水) 14:00

場所：慶應義塾大学三田キャンパス 北館 1F 会議室 2 <http://www.keio.ac.jp/access.html>

現代日本に現れている興味深い現象として、〈エア恋愛〉がありますが、これは、女性が実在または架空の人物(デジタル・サイバー世界における仮想的実在人物も含む)に対して「妄想で恋愛」する〈想像的实践〉のことを指す用語として定着しています。この文化人類学セミナー講演では、この問題を文化人類学/カルチュラル・スタディーズの枠組みによる調査研究成果として、さまざまな事例や〈乙女ゲーム〉の例を紹介しながら、問題提起をおこなっていただきます。デジタル情報技術が文化社会のありかたを変えつつあり、サイバー空間と大なり小なり共生しつつ生活を組んでいる現代の人々のありかたの一端と諸問題を理解する試みです。本研究会では、討論のときに、「癒しのある関係を仮想的世界のなかに形成することによって、複雑化するソシアビリティに擬似的に(?) 適応する方略をとっている文化的社会的背景について広く検討すべき問題群」のなかに位置づけたいと思います。なお、慶應義塾大学論理と感性のグローバル研究センター・文化人類学・医療人類学班の共通課題である〈論理と感性の相互身体関与性、感情の文化社会的構成、ミクロ次元における文化的社会相互作用・ミクロ文化事象における相互感情動態〉研究との関連のなかで、本研究セミナーをひとつの意義ある課題と位置づけています。

Since the early 2010's, in Japan, the attachment to fictitious characters is called Air Love (*ea ren'ai*), a reference to Air guitar. Air guitar is a form of dance, in which the performer pretends to play an imaginary electric guitar. Air love is a form of ritualistic performance, in which the player pretends to interact with an intangible lover. Based on the sound dimension of the practice of Air love, Dr Giard will focus on the simulation love games' links with the technics of make believe.

14:00~15:00 **アニエス・ジヤール パリ・ナンテル大学ソフィアポール研究所准研究員**

15:15~15:45 質疑と補足、会場討論 15:45~16:00 まとめと展望

司会・まとめと論点展望 宮坂敬造 (東京通信大学・文化人類学、慶應義塾大学名誉教授)

*セミナー講演は英語ですが、学部学生の方などの参加者のために、必要があれば日本語抄訳まとめの提供および日本語での質疑が可能です。

主催 慶應義塾大学 論理と感性のグローバル研究センター文化人類学チーム

●お問い合わせ先●

同センター・名誉教授メンバー (共同研究員) 宮坂敬造

FAX 03-5427-1578